

人員配置 (人数)

部門	検査室
臨床検査部	外来採血室 (11) 検体検査室 (18)
	分子・微生物検査室 (7)
	生理機能検査室 (23)
輸血部 (6)	胚培養部 (2)
病理部 (11)	管理職 技師長 (1) 係長 (5)

国際規格 ISO15189の認定取得と維持

2016年3月にISO15189認定を取得
2020年病理部門を拡大
2023年9月第2回更新審査を予定

臨床検査部（生理検査部門含む）・輸血部・病理部）

ISO15189認定施設は・・・

- ◆安心で安全な質の高い検査を提供できる
- ◆継続的改善の仕組みが確立され、医療安全へ貢献できる
- ◆適切な品質管理システムが導入され、効率の良い検査室運営ができる

中央採血室

年間 採血実施数 140,000件



採血室の取組み

患者確認の徹底

- ◆ 受付票の発行、受付システムによる照合
- ◆ 本人確認（患者さんと採血管のラベルで）

患者急変時の対応

- ◆ 看護師と協力して
- ◆ 日頃の訓練

待ち時間の短縮

2017年に採血ブースを増設 9から12ブース

不適切な採血・搬送による検査中止・再採血の削減

2022年度 採血患者140,000人に対し、8件

患者転倒転落防止

2022年度 採血室内の転倒0件

検体検査室



検体到着～報告

- ① 初療室・手術室からのエアシューターによる至急検体は優先的に測定
- ② 搬送システムにより
受付、遠心、開栓、血清分離、測定装置へ挿入、検体一時保管まで自動



検査分野	依頼件数
生化学・免疫検査	800～1000件
血液検査	800～900件
凝固検査	150～200件
尿一般検査	300～350件

1日の検査依頼数(外来・病棟)

夜間・休日も当直者が同じ搬送・測定装置を使用
生化学項目41、免疫35項目を自動測定

生化学・免疫自動分析装置



生化学検査:

1時間当たり6000テスト測定できる連結機を2台所有しています。

最新のロボット技術を搭載しており、**高速でかつ高性能**な検体・試薬処理が可能となっています。

免疫検査:

1時間当たり300テスト測定できる装置を2台所有しています。

測定時間の長い免疫項目も緊急度の高い検査結果は**迅速**にお返ししています。



血算・凝固測定装置



血算：
1時間当たり100テスト測定できる測定機を3台所有し、自動塗抹標本作製機、検体収納ストッカーを連結しています。血液像自動分析装置を活用し、血液像(目視)を効率的、かつ迅速に結果を報告しています。

凝固検査：
1時間当たり450テスト測定できる装置を2台所有しています。機器のメンテナンス中にも検査をストップすることなく結果を報告しています。



検体検査室の取組み

安全対策

- ◆ 検体交差防止のためのバーコード管理
および自動遠心・自動分注
- ◆ 乳児など微量検体や手作業手順の徹底

診療支援

- ◆ アドバイスサービスの推進
- ◆ パニック値・緊急異常値報告

検査精度の担保

- ◆ 外部精度管理の参加と振り返り
- ◆ 内部精度管理逸脱時の手順の遵守
- ◆ 鏡検等の目合わせ、教育研修の強化

結果報告遅延の管理

- ◆ 検査装置別進捗管理システム
- ◆ トラブル時の迅速な情報提供

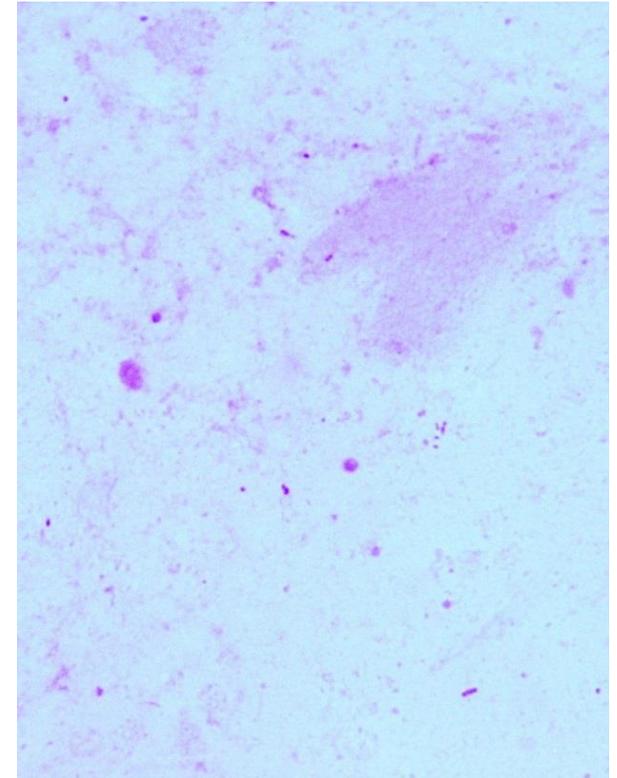
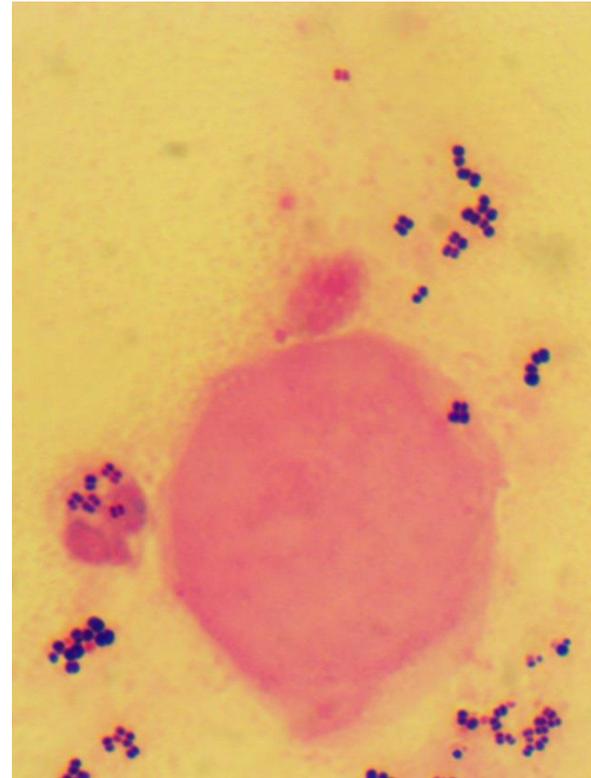
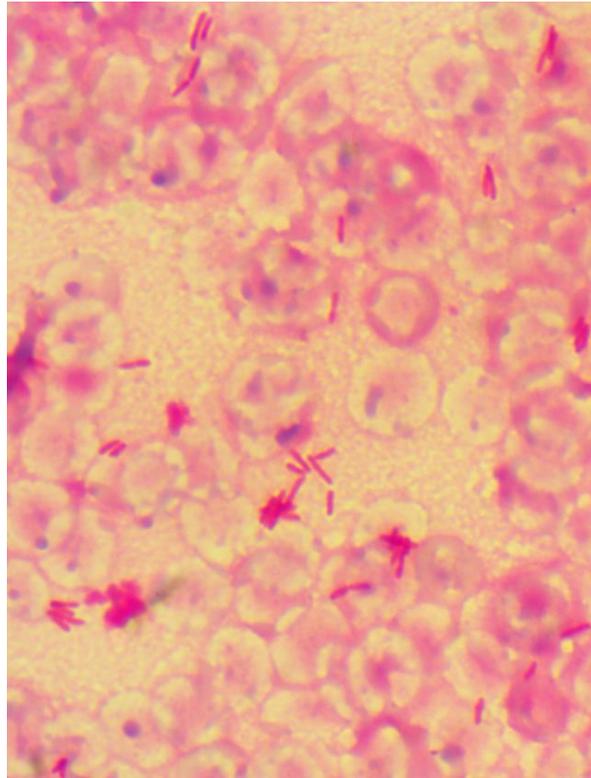
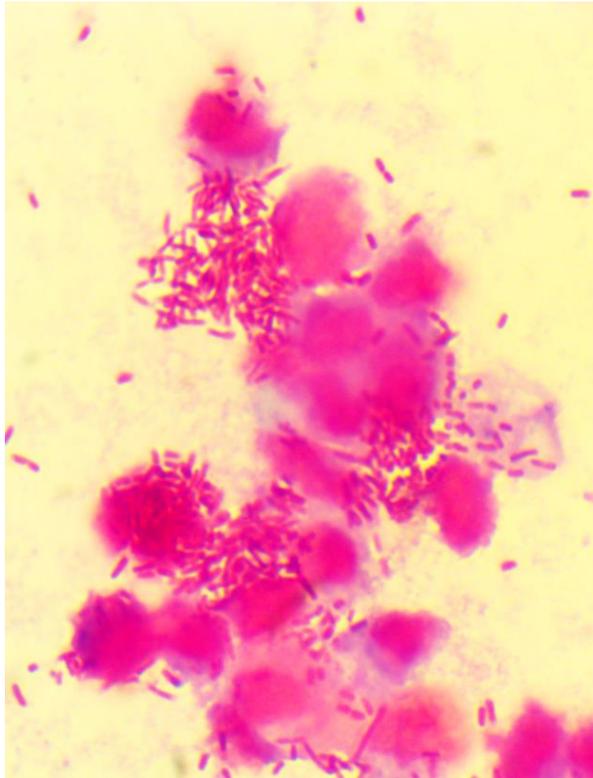
分子・微生物検査室

- ◆ 一般細菌の培養、同定、薬剤感受性試験
- ◆ 抗酸菌の塗抹鏡検
- ◆ 遺伝子検査による同定
- ◆ 感染制御部へ参画
- ◆ 病原体（分離菌）サーベイランス

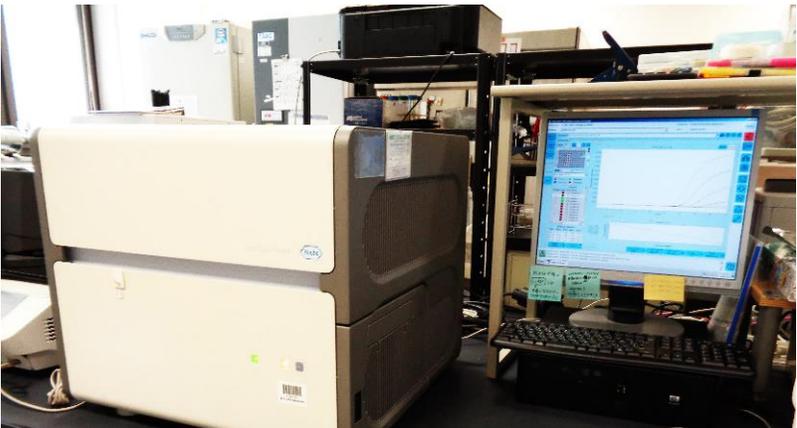
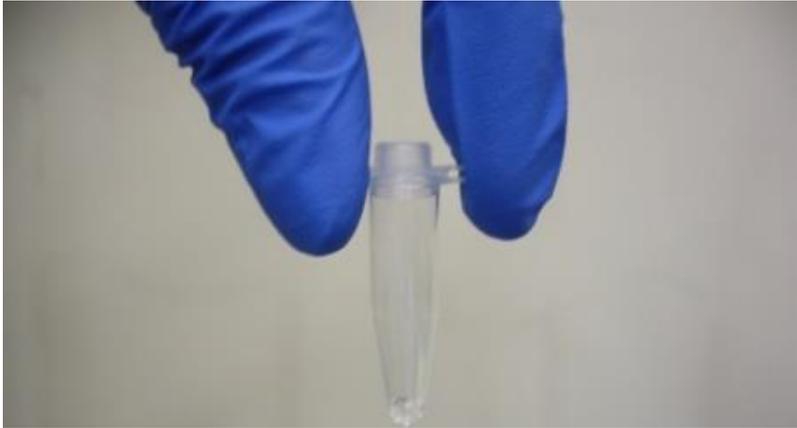


治療方針を決める朝のカンファランスに有用な情報を提供しています

：血培陽性検体の塗抹（グラム染色）は30分早出にて実施し、迅速に報告



病原体遺伝子検査



分子・微生物検査室の取組み

安全対策

- ◆ 検体交差防止のためのダブルチェック
- ◆ ヒヤリハットからの業務改善

診療支援

- ◆ アドバイスサービスの実施
- ◆ 研究のサポート

検査精度の担保

- ◆ 学会研修会情報の共有と導入

チーム医療への参画

- ◆ ICT 感染制御チーム
- ◆ AST 抗菌薬適正使用支援チーム
- ◆ 院外病院連携における相互チェック・研修会

生理機能検査室



本館3階 超音波センター



本館4階 心電図・呼吸機能・脳波・筋電図検査

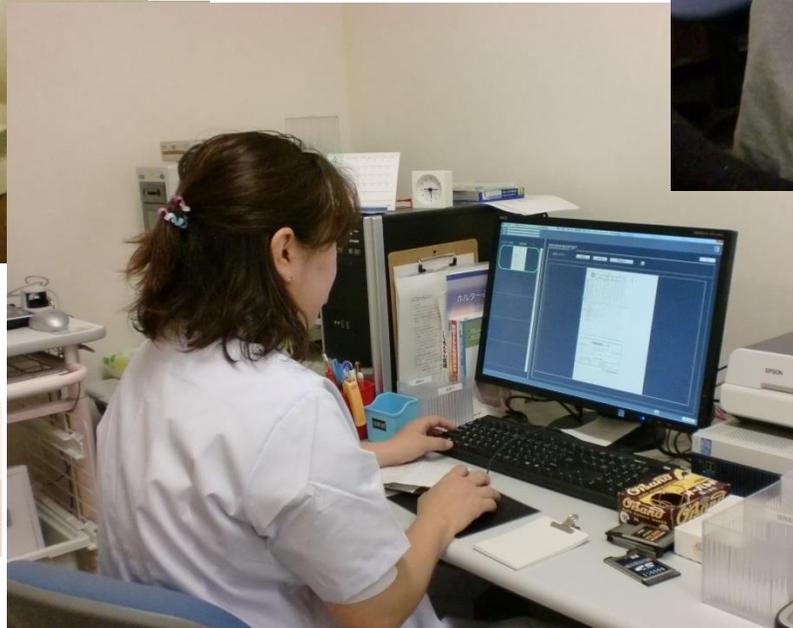
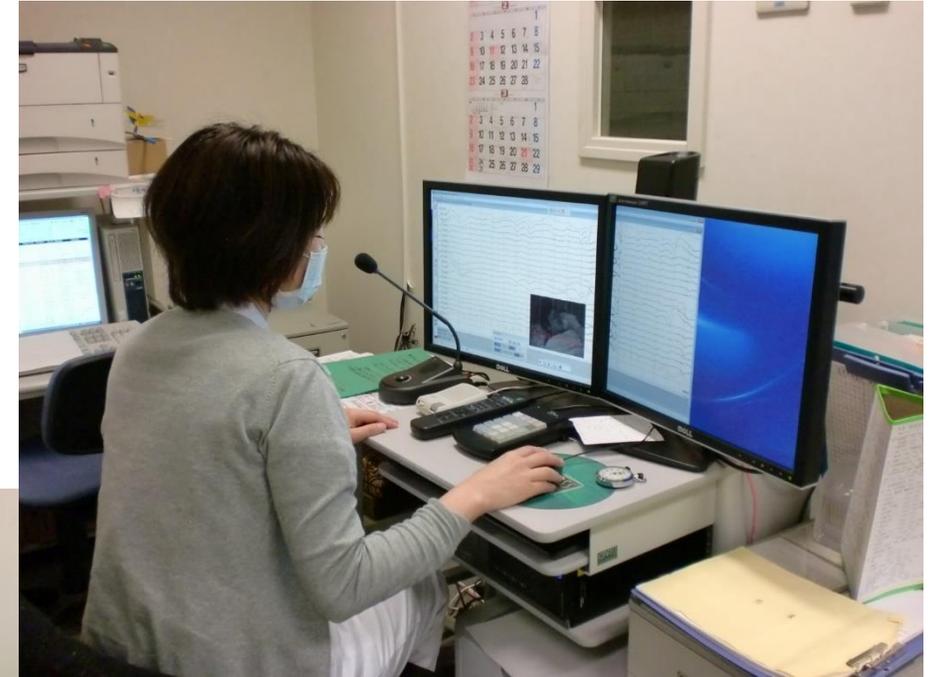
心電図・呼吸機能検査



12誘導心電計



ホルター心電計

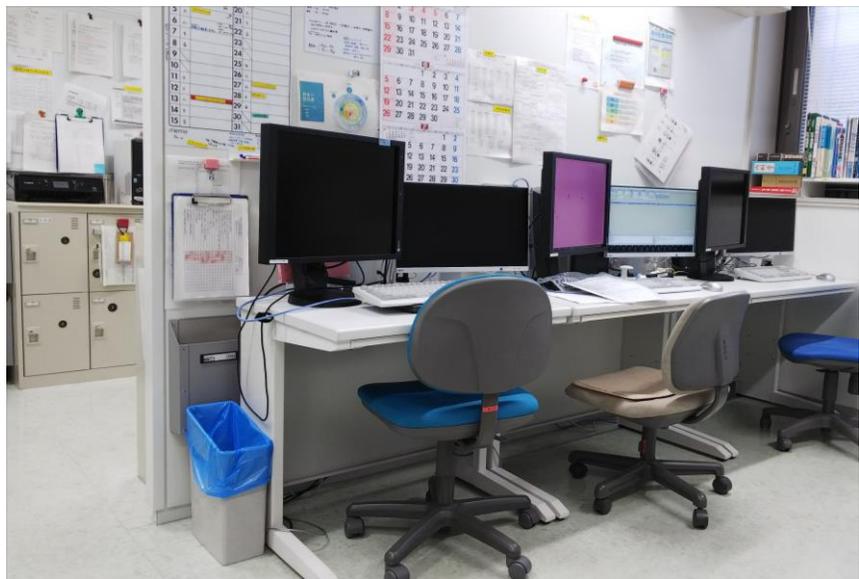
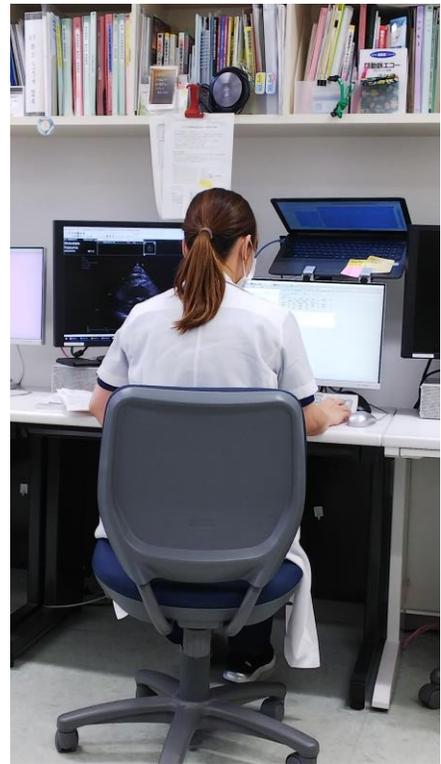
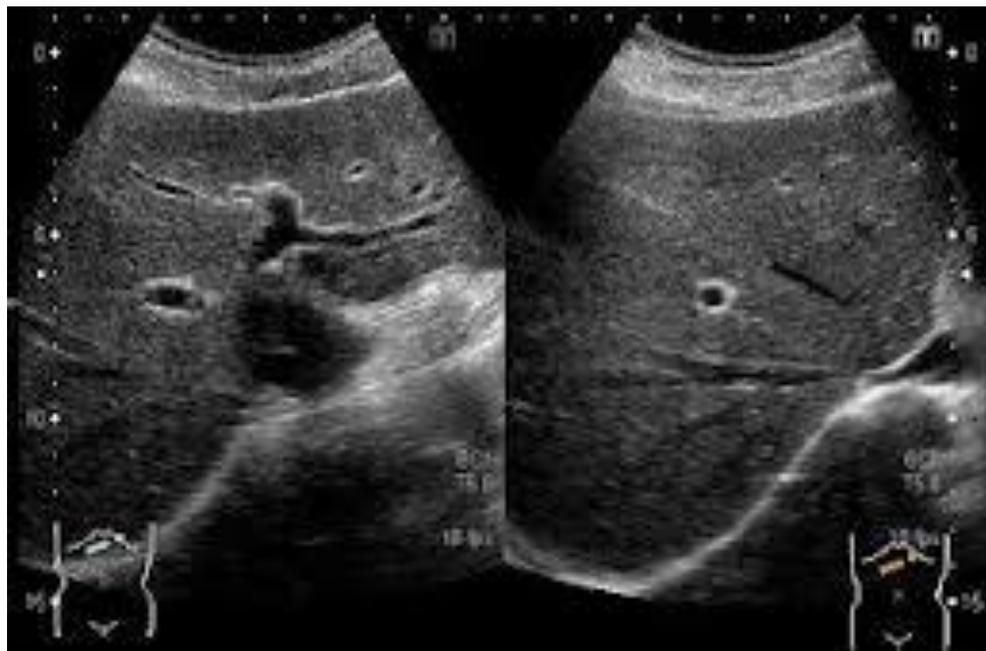


心電図・呼吸機能検査	30000件
脳波筋電図検査	1300件

超音波検査



領域	2022年度実績
腹部エコー（腸管エコー含む）	2776件
心臓エコー	8805件
表在エコー	2640件
血管エコー	2870件



生理機能検査室の取組み

安全対策

- ◆ 転倒転落の防止
- ◆ 患者同定照合の実施
- ◆ ヒヤリハットの共有と業務改善

検査精度の担保

- ◆ 教育・研修の実施(部内勉強会)
- ◆ 機種・検査者間差の評価
- ◆ 外部サーベイランスの参加
- ◆ 認定資格の取得

診療支援

- ◆ 緊急検査応需(超音波検査・脳波検査ほか)
- ◆ 診療科医師との検査の実施
(経食道心エコー・運動負荷心エコー・心肺運動負荷試験・体性感覚誘発電位)
- ◆ 研究のサポート

チーム医療への参画

- ◆ ハートチーム(僧房弁置換術におけるエコー検査)

病理検査

治療選択を目的とするがんゲノム医療のためのゲノム検査部を兼務

組織検査

(約13000件/年)

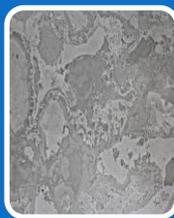
- HE標本作製
- 免疫染色・特殊染色
- 迅速検査



電子顕微鏡検査

(約200件/年)

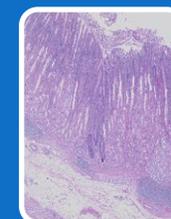
- 主に腎臓



がんゲノム検査

170件

外注標本作成:734件



細胞検査

(約6000件/年)

- 細胞診標本作製・鏡検
- 出張細胞診(300件)

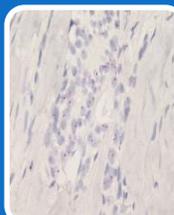


迅速検査

(約500件/年)

免疫染色

(約3300件/年)



剖検

(約20件/年)



病理部の基本方針

- ◆ 臨床支援、あるいは臨床と共同して医療の質的向上
- ◆ 病変解析能力を高め、新しい病気・病態理論・治療法の糸口の発見、医療への応用等に貢献
- ◆ 手術・生検材料を対象に個々の病気の病理学的診断を行い、治療方針の決定、治療効果の評価などを通じ高度医療の提供に貢献
- ◆ 多種多様の病理解剖を数多く実施することで症例解析を行い、診療・教育・研究に貢献

輸血部業務

* 検査

- ・血液型
- ・抗体検査
- ・交差適合試験
- ・直接・間接クームス検査
- ・血小板抗体検査 等

* 移植関連

- ・骨髓液濃縮、細胞採取補助
- ・造血幹細胞管理 等

* 製剤管理

- ・製剤発注(血液センター対応)
- ・製剤入出庫
- ・製剤分割(新生児・小児)
- ・製剤搬送 等

* 採血当番

* 日当直業務(1名)

- ・臨床検査部・病理部職員と当番制

* 輸血部長による自己血採血

* 輸血療法委員会開催(年6回以上)

輸血部の基本方針

- (1) 安全な血液製剤の迅速な供給に努める。**
- (2) 輸血療法マニュアルに則り適正輸血を推進する。**
- (3) 24時間対応する。**

全自動輸血検査システム

血液型

抗体検査

間接クームス検査

交差適合試験



血液型カセット



24時間 緊急検査に対応しています